



5年余りの在宅介護で夫を看取る

新潟市巻
遠藤保子さん(82歳)

今年3月、保子さんは夫の信男さんを看取った。信男さんが週3回のデイサービスに出かける日の朝、朝食後に薬も飲ませて髭も剃ってあげた。ところがどうも様子がおかしい。電話で駆けつけた医師が、「亡くなられていますよ。十分な介護をされましたね」と言った。信男さんは認知症を発症して4年目に風呂場で意識を失い、救急搬送されてから寝たきりになった。以来会話も食事も自力でできなくなり、その1年8ヶ月後の出来事だった。近所に暮らしている長女には仕事があり、保子さんはほぼひとりで世話をしてきた。介護しやすいよう信男さんの衣服を改良するなど、その創意工夫には周囲も驚くほどだった。「思いも寄らない突然のことではびつくりした。寂しくなったけど、暖かい季節で心が落ち込まないのと、私が元気なうちに看取ることが出来てホッとしている」と明るく語る。

(院首記) (2ページに続く)

妙たえの光ひかり

復刊116号



行事案内



お墓参りと施餓鬼法要

地区別で8月1日(日)、8日(日)、9日(月・祝)

密集を避け、3日間に分散して行います。地区別での参拝にご協力ください。
※詳細は別紙「お盆参りのご案内」をご覧ください。



新盆法要

ご希望で8月1日(日)、8日(日)、9日(月・祝)

檀徒で新盆にあたる精霊のお位牌を本堂に安置し、ご供養します。関係のご家庭には直接お知らせを入れましたので、ご確認の上どうぞご参列ください。
※檀徒以外の新盆供養もお受けします。ご希望の方はお問合せ下さい。

お盆棚経

8月初旬～16日

関係のお宅にはご案内のハガキが届きます。日程ご確認の上、不都合な場合は早めに電話連絡をお願いします。

岩屋七面様祭礼

8月19日(木)

午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



万灯のあかり—妙光寺の送り盆

第32回フェスティバル安穩

8月28日(土)

感染症対策で今年も縮小しての開催ですが、ご参加は可能です。詳細は別紙パンフレットをご覧ください。

◆献灯のご案内

1基2千円 メッセージを添えてお申し込みください。

秋季彼岸会法要

9月23日(木)・祝

午前10時30分 安穩廟法要

11時 本堂にて彼岸会中日法要

12時 おとし

午後1時 住職法話
※予約不要ですが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、内容を変更する場合があります。ご了承ください。



月例ボランテラ 毎月15日

※8月は25日(水)に変更します

午前9時～11時半

午後1時～3時

7、8月は送り盆の準備、9月は清掃作業等です。たくさんの皆様のご協力をよろしくお願い致します。



月例信行会 毎月第1日曜日

7月4日(日)、9月5日(日)

※8月はお休みします

午前 7時～9時
会費 1,000円(各自賽銭箱にお願いします)
※予約不要。当日お寺へ直接お越しください。お参りと法話、軽い作業、朝粥の朝食やコーヒータイムがあります。



あ と が き

第7回浄土講座では、東京農大鈴木誠先生から妙光寺境内の「心地よさ」の秘密を教えてくださいました。今号のインタビューは鈴木先生のお話をまとめました。「ここ、そこ、その向こう」に宿る造園の世界——境内を設計した野澤清氏にお会いしたことのない私でも、境内を通じて、その思いにふれることができるのは、不思議で嬉しい体験でした。お盆のお参りの折には、あらためて「常に完成途上」の境内をお楽しみください。(新倉理恵子)



安 穩

小川良恵

境内のリス



山林整備が進んでいます

境内の山林整備が進行中であることは、8ページでもご報告の通りです。参拝に来られて、その変化に驚かれた方も多いのではないのでしょうか。毎日の様子を見てみると、ほんの一年前までは、竹藪と荒れた杉林だったことを忘れてしまいそうにもなります。

リスを目撃

さて、そんな境内ですが、リスが生息していることを皆さんはご存じでしょうか。私が初めて目撃したのは、3年前のことです。ちょうど今ぐらいの季節の夕方、鯉の餌やりの時間でした。池から庫裡へ戻る途中、しつぽの大き

な小さな生き物が山門の先にいたのです。ネズミかな、と一瞬思ったのですが、足を止めて、よくよく見ると、なんとリスでした。あいにくスマホを持っていなかったのですが、その時は、こちらに気づいて逃げ出す姿を見送ることで済ませました。すぐさま、院首さんや母に「リスがいた!!」と伝えたのですが、何かの見間違いだろうと取り合ってはくれませんでした。私も角田浜に生まれ育って30年以上になりますが、リスらしき姿を見たのは初めてでしたので、そう言われてしまつと弱いもの。絶対に見たとは自信を持てずに、気のせいだったかなと過ぎていました。

院首もリスを目撃

しかし、昨年、杉林伐採の下見に来た森林組合の方が「ここにはリスもいますよ」と教えてくれたのです。「ほらね!」と思わず父に強気に

でたのですが、驚いたのはこの後でした。話を聞いた翌週、院首さんが「俺もリスを見たぞ」と言い出したのです。

信じることは目を開くこと

おそらく今までも見えてはいたけれど、「いるはずがない」との思い込みから、気づかなかつたのではないのでしょうか。私自身、あれ以来見ることのなかったリスの姿を、この日以降に目撃しました。信じるということは、目を開くこと。それを改めて実感した次第です。

この1年の工事でリスも山奥に逃げてしまったかな、と案じていたのですが、先日また境内を横切っていました。まだ、妙光寺を住処と思ってくれているようです。皆さんも、ぜひ、信じて目を開いてみてください。また、これからモリスや小鳥やムササビの生息する境内の森を守るためにご助力いただきたくお願いいたします。

信 心 プ ラ ス

新潟市巻 遠藤保子さん(82歳)

お世話も信心も親譲り

保子さんは樺太で生まれた。父親の茂三郎さんは親戚が経営する建設会社で働いていた。敗戦翌年の昭和21年、一家7人で文字通り命からがら両親の郷里五ヶ浜村へ引き上げてきた。小さな村に茂三郎さんの仕事はなく、弟が経営に参画する埼玉県の会社に勤めた。母親のチヨノさんは五ヶ浜に残って子供たちを育てた。チヨノさんは何事にも器用で気丈な性格で、妙光寺檀徒のまとめ役でもあった。

保子さんは中学を出ると職業訓練校で洋裁を習得した。21歳のとき同じ村で遠縁に当たる妙光寺檀



信さんが割箸で描いた父信男さんの肖像画が葬儀の遺影に使用された。

徒の長男信男さんと結婚した。「船乗りで留守がちなら私の父親と同じだし、気楽で良いわ」と思ったという。その後も実母と暮らし、やがて子どもたちの進学を考えて近くの巻町に家を建てて移り住み、高校の制服を縫製する仕事で忙しかった。信男さんの両親が亡くなったのを機に自分も母親のようにお経を覚えていたと思い、巻講中に仲間入りした。巻地区の妙光寺檀徒が毎月各家を持ち回りでお経を読み、茶飲み話や[＊]無^む尽^{じん}をしている。「あのころは23人いたのが、40年近く経って今は8人。しかもコロナ禍で休止なんだわ。楽しみなのにねえ」と保子さんは言う。

努力の末の機関長

信男さんは生後まもなく父親と死別、母親が再婚してやはり妙光寺檀徒の他家へ嫁ぎ2人の弟妹が生まれた。中学を出ると1年間漁師の見習いをしたが、生家売って石川県の商船学校に入学し、卒業後海運大手の川崎汽船に就職した。その後も勉強を続けて神戸海技大

船の機関長になった。「長いときには2年も帰れないので、家族が寄港地の神戸や横浜に行き、荷物の積み卸し中の船内で一緒に過ごしたこともある」と保子さん。しかし海運不況のため54歳で退職し、五ヶ浜で漁師の仲間入りをした。信男さんは漁業組合の役員を頼まれるなど信頼されていた。その当時五ヶ浜の妙光寺檀徒は総本山身延山久遠寺に分骨用の墓を持つ家があり、信男さんも母の死後遺骨を収めに団体参拝に参加した。

子供は一男一女

長男信^{まこと}さんは、小学生のころから絵が大好きだった。専門学校を卒業して東京の大手広告代理店に勤めたが、世界を見たいと28歳でアメリカに渡る。ニューヨークの広告代理店に職を得て、新聞の一面広告をデザインするなど両親を喜ばせた。さらには割箸でバイクや車などを描く絵画が認められて独立した。しかし今はコロナ禍でイベントがなく、仕事は厳しいそうだ。

10年前、信さんは帰省して高校の同級会で再会した礼子さんと結

婚を決めた。40代も半ばなので結婚式をためらう2人に、両親はせめて親戚への披露だけでも希望した。その際礼子さんが選んだ会場が妙光寺だった。本堂で簡素な式を挙げ大広間で披露宴をした。

この度の信男さんの葬儀に、信さん夫婦は喪服を着てニューヨークからスマホの中継で参列した。良恵住職の提案だった。京住院の葬儀会場のモニター画面を通して、集まった親族と「やあ、久しぶり」と会話が交わされた。その後49日を過ぎても、信さんは毎朝スマホの画面を通して信男さんの祭壇にお参りし、保子さんがおリンを鳴らしているという。

長女の典子さんは両親を案じ、ご主人の理解を得て2年前に実家近くの畑だったところに家を建て、仕事先の千葉から転居した。山形生まれのご主人はこの6月に定年を迎え、典子さんと2人暮らしになった。でも保子さんは娘を頼るところか、周囲の相談相手になるなどまだまだ元気一杯だ。

^{＊無^む尽^{じん}} 会員が一定金額を出し合い、くじ引きに当たるとまとまったそのお金を受け取れる相互扶助の仕組み。

◆『ご妙判お大会』^{だいえ} 天童音楽法要 4月29日

コロナ禍のため昨年に続き規模を縮小しました。今年は日蓮聖人御降誕800年、佐渡配流・角田浜御着岸750年という特別な年でもあり、対策を講じつつ一般参詣者や稚児も参加して開催しました。併せて新たに住職の弟子となる櫻井義秀さんの得度式も行いました。



僧侶になるための最初の儀式「得度式」に臨む櫻井さん



事前に角田浜の皆さんでお大会の旗立て



緊張の面持ちで本堂へ向かう6人のお稚児さんたち



散華舞う『お大会・天童音楽法要』



雨降る中での水行



記念法話は菊池泰啓師。妙光寺山務員・菊池上人のお父様です



この時だけは一瞬マスクを外して記念撮影

山林整備

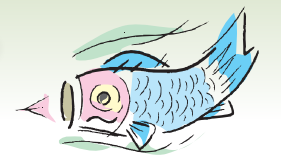
一年余りかけた新潟県庁森林保全課との協議がまとまり、境内山林の一部が保安林指定区域となることが確定しました。



担当者による表示杭の仮打ち作業の様子。植栽には一部補助金も出るようです。



寺のうごき



◆第6回浄土講座を『角田浜妙光寺山古墳』説明会 4月10日



調査団長の橋本博文先生からこれまでに分かったこと、新たな謎についてのお話をお聞きました。その後参加者の半数30人が妙光寺山に登り、古墳現地での説明を聞きました。



◆第7回浄土講座『なぜ妙光寺の境内は心地よいのか』 ～造園家・野沢清氏の込めた思いを語る～ 6月12日



妙光寺の庭づくりに尽力された故野沢清氏の後輩、鈴木誠先生が、庭づくりの細部までを語り、50人の参加者とともに境内庭園を歩きながら、その魅力を解説。

本堂外壁塗装と歴代住職廟の移転工事

外壁を塗替え工事中の本堂の隣で、歴代住職廟の移転工事も進行中です。



——造園学者・鈴木誠先生に聞く——

なぜ妙光寺の境内は心地よいのか

訪れた人たちが「心地よい」と感じる妙光寺境内。しかし40年ほど前までは、谷あいの沢筋にあるために長年水害に悩まされる悩みのタネの土地でした。その境内に現在の風景を創ったのが、造園家・野澤清氏です。二〇〇六年73歳で急逝した野澤氏は、いま安穩廟の一角に眠っておられます。没後15年になる今年、6月12日（土）、第7回浄土講座に鈴木誠先生をお招きし、野澤清氏の仕事について講演していただき、境内を見学しながら解説もしていただきました。鈴木先生のご講演と終了後のインタビューをまとめました。

第7回 浄土講座

『なぜ妙光寺の境内は心地よいのか』 ——造園家・野澤清氏の込めた思いを語る

野澤さんは類まれな造園家であり、私の大好きな先輩でした。その生涯をかけた仕事である妙光寺境内の整備が最終段階に近づき、そして古墳まで発見されたと聞いて、今日はやってみようと思いました。

野澤清 その作品と人物

野澤さんは昭和7（一九三二）年東京生まれで、東京農大造園学科を卒業した後、造園家としてたくさんのお仕事をしました。それだけでなく、晩年は野澤无陀^{むだ}と自称して「園学むだん塾」を主宰し、後進の育成に努めました。平成18（二〇〇六）年8月に73歳で急逝されるまで、日本造園アカデミー会議議長として活躍されていました。

●野澤清の作品●

野澤さんの代表作は、宮内庁吹上御所庭園、世田谷美術館庭園、静岡市城北公園日本庭園、ここ妙光寺境内など多数あります。代表作の一つ、世田谷美術館庭園は都立砧^{かた}公園の中にある美術館です。内井昭蔵氏（吹上御所の設計者）が建物の設計をし、野澤さんが庭園を設計しました。建物の中

心に円を描く形でランドスケープ（景観）が設計されています。庭園の入口から曲線のアプローチが続いて、芝生の園地は土留めを兼ねた低い石のベンチで囲まれています。この曲線に囲まれた芝生地と、縁にある低いベンチがちょうどいい感じなのです。広場の中は、もともとあった樹木を間伐して大きなケヤキの木等が残されています。創られてから35年経っていますが、良くなっているけれど悪くならない立派な仕事です。戸田芳樹さんという活躍中の造園家が、二〇一九年の本でこの庭園について書いています。野澤さんの作品に対する一番新しい評価です。「野澤はここで何を主張して何を作り出したのであろうか。美しいし、おさまりも丁寧だが主張が見えて来ない。…私は個人的に野澤と話した機会もあり、主張の強い人であった記憶があるが、この作品にはそれが無い。…建築を包み込む空気のようなランドスケープ」と、心地よい景観として、評価しています。

●野澤清の人物●

野澤さんを、野澤仙人と呼んだ人もいたくらいで、飄々とした独特の野澤ワールドを持っている方でした。自分の造園学を「園学^{えんがく}」と呼んでいて「園学百項」という手書きの原稿を作っており、それを没後にまとめた本が『「園学」のすすめ 造園を哲学する』です。野澤さんは、造園は「場」を「園^{さの}」にする仕事であると言っていました。「園」は眼前一視野限定完結映像ではない。Here—there—overthere（じや、そじや、その向う）のオスモロジー景で、one—other—another（それからそれへ）の連続景だということです。



鈴木 誠先生

1954年、東京生まれ。東京農業大学名誉教授。同大学グリーンアカデミー校長。東京農大造園学科で野澤清氏の後輩にあたり、親交も深かった。野澤氏没後、弟子の皆さんがまとめた遺稿集『「園学(そのがく)」のすすめ』には解説をかいておられる。

鈴木誠の考える「庭」と「園」

野澤さんの定義によると「庭」は「前例がありカタログがある。グッズやキットが揃えばあとは組み立てるだけ」のものです。「園」は「人の近くの外光（太陽）の下でのアメニティ（心地よさ）を体感する場（環境）」「自然七素が必要かつ充分」であるものです。造園には「庭化」と「園化」の2つの方向があると、野澤さんは言います。

日本の家は山を背にして建っていて、縁側や窓で庭に向かって開いています。その庭と外の間には、生け垣があります。その曖昧な仕切りの向こうに、野原や林が続き、田んぼや畑があり、川や海に続きます。その庭の向こうの田畑も「園」と見るとというのが、私の見方です。

安穩廟の設計と「造園におけるランドフォームデザインの研究」

一九七九年の私の学会デビュー論文は、「造園におけるランドフォームデザインの研究」でした。六義園などの築山を調査して、高さに対してどれくらいの距離で鑑賞すると心地よいのかをまとめました。高い築山に近づけば山懐に入った感覚になり、低い築山から遠ざかれば築山を周囲の景観の一つとして眺めることになる。それを数値化しました。

野澤さんは、造園には「自然七素」があると言って、「命」が中心にあり「天、緑、光、地、風、水、」が周囲を囲む図をよく書いていました。「命」には当然人間も含まれます。「ヒューマンスケール」という言葉も口にして



いました。人間から見て気持ちの良い距離感のことです。私の論文は「ヒューマンスケール」をテーマにしたものでした。そして安穩廟の設計にも、もちろんこれは生かされています。

野澤清の古墳

野澤さんは古墳をベタホメしています。前方後円墳は日本最初の「園づくり」の技術だったのではないかと。形として計画意図があり方向軸も意識されていて、人を動員する土木工事だから「古墳の土木技術は、造園の土木技術と等類（同じレベル）」と述べています。安穩廟の背後の山上に古墳があるなんて、生きておられたら縁を感じて大変喜んでいただろうと思います。

妙光寺境内に構想されつくられた「園」は、手入れされた古墳と緑山・里山となった風景により、さらなる自然の「園」に生まれ変わる。「人の近くの外光（太陽）の下でのアメニティ（心地よい）」を体感する場（環境）」になっていくのです。

境内見学

参道山門前から見る三重塔

三重塔の風景は、「むだん塾」の若者たちが、野澤さんと一緒に作り上げました。山門前に立つと、左の高まりから右へ目線が動くように作られていることがわかります。そして左右の池尻（池の端）が見えないので、その向こうに何かがあるように感じさせます。塔を中心に置かず、わずかにずらすことでそこだけで終わらない風景をつくるところが野澤流です。「遠くへ、遠くへ…広く、広く…」

インタビュー

Q 鈴木先生はどうして造園学者になろうと思ったのですか？

A 鈴木 高校時代に庭師が公園の植木を剪定しているのを見て、明るくて平和な「こういう仕事があるんだ」と思ったのがきっかけです。ところが大学1年の「造園学総論」という講義で、自分は「庭づくり」の勉強をするつもりだったのに「造園は環境計画の科学である」と言われました。「環境」といえば宇宙も命も関わる非常に広い世界ですから、がーんとやられて、そこから造園学にのめり込みました。

Q 野沢清氏との付き合いは？

A 鈴木 農大造園学科のOBとしてのお付き合いが最初です。私が土曜日午後に研究室に行くとよく電話がかかってくる。「至福の時間に失礼。お暇ですか？」と訪ねて来られました。そして日本造園アカデミー会議に参加するようになり、安穩廟の初期の工事が終わったこ

ろに妙光寺にもお邪魔しました。

先日テレビで『明治神宮の森』という番組を見ました。明治時代の人たちが百年後を考えて植林した森だそうですね。

鈴木 明治神宮の森造成の中心人物の一人、上原敬二博士は農大造園学科の前身にあたる東京高等造園学校の創立者です。

Q 妙光寺境内も百年後を考えて設計されているのですか？

A 鈴木 妙光寺境内は常に完成途上です。そこを考えるのが造園学の基本ですからね。今の境内は、野澤さんの弟子である松本恵樹さんが引き継いで創っています。

松本恵樹 百年どころか、五百年、千年先まで考えていますよ。おまかせください。

本日は良いお話をありがとうございました。（聴いた人 編集部・新倉理恵子）

妙光寺山林整備構想案

設計 松本恵樹(春秋設計工房)

パース製作 齋藤順正

ジョウ山



角田浜妙光寺山古墳



境内山林整備にご協力をお願いします

妙光寺

境内に隣接する山林を、山の崩落防止と地下水の流入対策のために地権者の求めもあつて購入しました。放置されて荒廃した杉林でしたが、森林組合の協力で間伐と整地ができました。さらにコロナ禍で手の空いた寺の職員と檀徒の皆さんのお手伝いで、暗渠排水管の設置、出土した大量の石を使った土留めを行いました。現在その一角に、歴代住職の墓を移設する工事を進めています。

7ページで紹介の松本恵樹さんが設計し、一緒に作業もしました。松本さんは新潟市の国指定名勝「旧齋藤家別邸」の作庭者と言われる松本幾次郎の子孫です。その設計図を院首友人の齋藤順正さんがパース(完成予想図)にしました。

ここまでで皆様にご協力いただいた浄土基金が、緊急時の蓄えを残して底を尽きそうです。これまでも敷地が広いため将来の管理経費増を避けつつ、整備を進めてきました。さらに少しずつでも完成形に近づけるために、皆様から浄土基金へのご協力を賜りたくお願い申し上げます。妙光寺の新しい歴史作りのため、その一翼を担っていただければ幸いです。

『提婆達多品第十二』

「悪人成仏」と「女人成仏」

日蓮聖人は『開目抄』の中で
「提婆品（提婆達多品）に二箇^{かんざう}の諫曉あり」と説かれています。
二箇の諫曉とは、「悪人成仏」と「女人成仏」を示し
『提婆達多品第十二』の大きなテーマです。

悪人成仏—— 提婆達多

「悪人成仏」は章題にある提婆達多の成仏のことで
す。提婆達多の名前はご存じの方も多いでしょう。
元々はお釈迦様の弟子でしたが、嫉妬心を抱いて造
反し、お釈迦様の暗殺を企てるなど、仏教界におけ
る極悪人であるとされていました。しかし、そのよう
な提婆達多は、お釈迦様の前世において、師匠であっ
た仙人の生まれ変わりであることが明かされます。提
婆達多がいたからこそ、お釈迦様は修行を完成させ
ることが出来たと語られ、悪人とされてきた提婆達
多の成仏が約束されたのです。

実は近年の研究では、提婆達多は非常に真面目
な人物で、厳格すぎる修行を周囲にも求めた為に、
極端な苦行を否定するお釈迦様の教団から離れたと
いう説が有力です。教団を分裂させたことから、悪
人であるとされてきたのでしょうか。一方的な視点から
善悪に囚われてはいけないことを、法華経は示して
いると言えるのではないのでしょうか。

女人成仏—— 龍女

「女人成仏」もまた、それまで偏見の目で見られて

いた女性の成仏を説いています。法華経以前の仏教
では、女性は五つの障りがあり、仏に成ることは難
しいとされてきました。提婆達多品では、女人成仏
を疑う弟子たちの前で、龍王の娘で八歳の龍女が男
子の姿に変じて、たちまちのうちに成仏して見せる、
という場面が描かれます。これを「変成男子」といっ
て、一見、男女の差別を克服しているようには読み
取れないことが指摘されます。しかしながら、法華
経を通読すると、龍女は提婆達多品以前にすでに成
仏していることが分かります。龍女が男子の姿になっ
て見せたのは、疑いを持つ弟子たちに対するパフォー
マンスであり、納得させるための方便だったのでは
しょう。本当は女身のまま、龍女も、そしてすべての女
性も成仏出来るというのが、法華経に説かれた「女
人成仏」なのです。

これまでの価値観にとらわれずに

『提婆達多品』で説かれる「悪人成仏」と「女人成仏」
は、これまでの価値観で悪や穢れがあるとされ、救
われないとされてきた者への救済です。それと同時
に、既成概念にとらわれがちな我々への諫曉——い
さめ、さとす教えであると考えられます。

角田山妙光寺インフォメーション

夏の行事とコロナ対策

高齢者向けワクチン接種が始まってい
ますが、夏の行事には間に合いそうにあ
りません。行事は、それぞれ別紙ご案内
の形で対応します。法事と葬儀は十分な
換気の中で行っています。検温と手指消
毒のご協力をお願いします。

役員会議と改選

例年の役員総会を6月27日に開催し
ました。主な議題は収支決算と予算審
議、今年度の行事計画です。今年は改選
期に当たり24人中4名の役員が交代さ
れました。退任の方には御礼申し上げます。
す。新任の方、宜しく願ひいたします。

職員人事

一昨年3月から正規職員として勤務し
ていた田村上人が、父親の病気で実家の
住職となるため5月末で退任しました。
今後は非常勤として鎌田上人と交代で

勤務します。お盆や行事等も従来通り
ですが、お盆には以前からの成川上人の
応援をさらにお願ひしました。皆様には
引き続き宜しく願ひいたします。

進行中の工事

本堂外壁と客殿の鉄骨塗装工事、歴
代住職廟の移転工事がそれぞれの業者
により7月末まで進行中です。

8、9ページの今後の山林整備計画は
「構想」です。また別紙ご案内の通り、盗
難被害の七面様石像も新たに制作中で
す。無理のない範囲でご協力いただけれ
ば幸いです。

『日蓮聖人展』開催

日蓮聖人生誕800年を記念した『日
蓮聖人と法華文化』展が7月17日〜8
月29日の期間、長岡市の新潟県立歴史
博物館で開催されます。県内の皆様には
割引券付案内チラシを同封しました。妙
光寺からも『祖書綱要刪略』という書籍

古墳の正式名称決定

の原本を出展しています。またチラシに
もある一尊四士像は、本堂のお釈迦様像
のモデルにしたお像です。お出かけくだ
さい。

昨年発見された古墳の名称が、新潟市

歴史文化課により『角田山妙光寺山古
墳』と決定されました。さらなる調査、保
存等については未定です。江戸時代の絵
図が名称の根拠となりました。この絵図
は保存状態の良い一級の資料といわれ、
歴史の一端が垣間見られます。名称決定

年会費他のお願ひ

に際して、他にも新たに国会図書館に保
存された江戸期の絵図の存在がわかり
ました。いずれご紹介したいと思いま
す。尚、古墳の調査報告書は発行が遅れてい
るそうです。

例年通り年会費とお盆の施餓鬼供

養、送り盆の灯籠供養のご案内を同封し
ました。分りやすさを心がけていますが
十分とは言えないかもしれません。ご不
明な点はお問い合わせください。宜しく
願ひいたします。

